新時代を読む

にっぽんプラスX 3

AIDC活況 設備に波及

荏原社長 浅見 正男氏

建築・産業用ポンプが好調な荏原。2025年12月期に営業利益で初めて1000億円の大台を突破する見通しだ。30年には売上高1兆円規模（24年12月期8666億円）の目標を掲げる。同ポンプの底堅い需要や、半導体製造用の化学機械研磨（CMP）装置のニーズを取り込む構えだ。浅見正男社長に今後の展望を聞いた。

―建築・産業用ポンプの需要動向を教えてください。

「ポンプはビルや工場に欠かせないため、景気に変動されにくい。昨今はAI（人工知能）関連のデータセンター（DC）需要が好調に推移する。DCのPUE（電力使用効率）を下げるために送風機や冷凍機が必要だ。事業全体に占める割合はわずかだが、変化が起こりつつある」

―保守・メンテナンスサービスの受注をどう拡大しますか。

「22年に始めた『EBARAメンテナンスクラウド』に注力する。メーカーを問わずポンプや送風機などにワイヤレスセンサーを設置し、稼働データをクラウドで即時に遠隔監視できる。工場からのニーズが多く来ており、1万個の販売を目指す。24年にはウルグアイに拠点を設立しており、M&A（合併・買収）で現地企業と手を組みながら今後も販売拠点を増やす」

―石油化学向けエネルギー事業の強化策は。

「コンプレッサー・タービンを製造する米ジュネット工場に対し、26年度までの3年間で数十億円の設備投資を見込む。生産性の向上や製造コスト削減が目的だ。北米は液化天然ガス（LNG）案件が多く、エチレンなど石油化学もある。脱炭素に逆行する動きもあるが、脱炭素の大きな流れが止まるとは思えない。二酸化炭素（CO_2）の回収・貯留（CCS）案件も獲得していきたい」

―半導体製造装置については新棟を立ち上げます。

「熊本工場（熊本県南関町）にCMP装置など半導体製造装置の新生産棟を4―6月期に稼働する。生産能力を1・5倍に増強する。今の（市場の）伸び率なら（今回増強する生産能力で）30年までは足りる」

―26日付で会長に就任します。これまでの6年間をどう評価しますか。

「今の状態の継続を最優先する文化や意識が大きかった。その意識を変えようとし続けた6年だった。また社内のコミュニケーションを円滑にすべく、質問や意見が出なかった経営会議のあり方を変えた。毎週8時から30分間、自由に話せる執行会議を始めてから経営会議や取締役会の議論も活性化した」

―ご自身の経営スタイルは。

「経営者には大師の悟り、賢者の負託、愚者の愚直の3タイプがある。自分自身は愚者の愚直だが、状況に応じて他の二つの手法も選択してきた。ビジネススタイルは一つではない。三つ全て必要だ」

（高島里沙）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社